



ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2024.7.27
NO.002

J R 東日本輸送サービス労働組合

東京支部 第6回定期大会開催

大会宣言(案)

私たち J R 東日本輸送サービス労働組合東京支部は、大田区消費者生活センターにおいて「第6回定期大会」を開催し、職場を原点にした運動を推し進め、労働組合の重要性と共にたたかう仲間の強化・拡大の成果を参加者全員で確認した。

「すべての仲間のために！」を結成スローガンに掲げてから4年5ヶ月。様々な逆境の中、4名の仲間と共にたたかい、迎えた脱退パワハラ訴訟控訴審判決では、会社による不当労働行為の組織的関与は認められなかったが、「管理者2名による不当労働行為を認め、会社による使用者責任があること、同時期に各職場で脱退勧奨が行われた可能性が高いこと」を認めた東京地裁の第一審判決を堅持した。しかし、今回のたたかいは氷山の一角に過ぎない。職場では未だに不法行為や労組ハラスメントが後を絶たない。今一度、脱退パワハラ訴訟の勝利判決と到達点を全組合員で確認し、今後も「あったことをなかったことにさせない」ために、第三者機関の活用と社会への情報発信を強化し、正常な J R 東日本をつくりだすため職場運動を原点としたたたかいで推し進めよう！

今、J R 東日本は鉄道事業部門から生活ソリューション部門への転換に躍起になる一方、業務の複務化をはじめとする過度の効率化と、現場や利用者の声に全く耳を傾けない傲慢な経営姿勢によって、現場では安全だけでなくサービスまでも置き去りにされている。浜松町駅改良工事に伴うホーム上混雑問題、京葉線を始めとする利用者を置き去りにしたダイヤ改正、そして私たちの声に聞く耳を持たず行われたみどりの窓口閉鎖・縮小等に対して、訪日外国人を含めた利用者からは怒りや疑問の声が上がっている。私たちはこの間、解決・是正を求めて団体交渉を行ってきたが、その対応はあまりにも不誠実であり、「施策は労使で進める」という共通認識である以上看過はできない。会社の不誠実交渉について緊急申し入れを行った東京地本を支部は全力で支え、現場重視の統括センターを私たちからつくりだそう！

物価上昇が止まらない現在、急速に円安が進み、実質賃金は26ヶ月連続マイナスとなった。さらに J R 東日本は新賃金と夏季手当を同時提案し実際の業績と夏季手当支給額の乖離を生み出した。もう限界だ！私たちは正当な評価と還元を求めるため学習会を通じて賃金に対する意識を高めてきた。今後も鉄道会社に相応しい賃金と働き方を実現させていくために仲間と共に運動を展開していこう！

気候災害が世界各地で猛威を振るっている。日本も例外ではなく酷暑が私たちを蝕んでいる。災害は時間と場所を選ばない。それは今年、元日に発生した能登半島地震が証明している。防災士を中心に「実踏・体験・見学」によって防災意識を高め、改めて「災害からいのちを守ること」「災害に備えること」が重要だと認識した。あらゆる状況下でも対応できる「知識」と「行動力」で J T S U 議員懇談会や地域社会と共に災害から「いのち」を守る鉄道と職場、社会をつくりだそう！

ジョブローテーションという名の強制配置転換がスタートして4年、J R 東日本の安全は危機に陥っている。この間、多くの先輩たちでつくり上げてきた経験工学を蔑ろにするこの強制配置転換によって、鉄道会社に最も重要な「経験」「知識」が大きく欠落した。その結果、事故・事象の増加だけにとどまらず、社員と利用者の命が脅かされる事態が相次いで発生している。また現在統括センターの施策が提案されているがその施策とも全く整合性が取れていない。組合員・社員・家族を不幸に陥れる強制配置転換は直ちに廃止すべきだ。

今一度、輸送サービス労組結成の原点を振り返り、日常活動を通じて組織強化・拡大を実現し、安全・安心できる職場をすべての仲間と共に取り戻していこう！

以上、宣言する。

2024年7月27日
J R 東日本輸送サービス労働組合
東京支部 第6回定期大会

大会宣言を満場一致で可決